

「新2教育現場で使いやすい-対話型美術鑑賞-の新規プログラムの開発」

会津大学短期大学部 幼児教育・福祉学科 高田 正哉 × 喜多方市教育委員会文化課

課題	<p>喜多方市では、2022年度より、「対話型美術鑑賞」のプログラムの普及を目指している。2024年度現在、「対話型美術鑑賞」は喜多方市内でも認知されているものの、学校教育等の教育実践において導入されている事例は、目標よりも少ないことが現状である。また、喜多方市の学校現場では、対話型美術鑑賞のことが認知されておらず、その結果喜多方市教育委員会の取り組みが普及されていない状況もある。</p>
調査研究手法	<p>本研究では、喜多方市内の小学校、中学校、高等学校等で「対話型美術鑑賞」が普及されるよう、その価値や新しいプログラムを作成し、教育実践で活用されることが目指されている。具体的には、喜多方市教育委員会文化芸術専門官の石田俊輔氏と連携し、ワーキンググループにて、新規プログラム作成を作成した。新規プログラムについては、「基礎演習Ⅱ」高田ゼミにてプログラムに基づいた実験的な活動を行い、学生からの評価を受けた。</p>
結果・分析	<p>本研究では、新規プログラムの開発および実験的な活動を行うことで、新規プログラムの普及のためのパンフレットを作成した。パンフレットの名称は、「対話型鑑賞と鑑賞を活用した学習プログラムのカタログ」である。このパンフレットを喜多方市内の小中学校、および県内の高等学校に配布することで、教育現場における「対話型美術鑑賞」の普及を目指す。また、パンフレット作成の評価および「対話型美術鑑賞」の普及のために、「対話の文化を創る～対話型鑑賞の可能性を探究する！」というイベントを実施した。このイベントでは、東海大学特任助教の西本健吾氏、フリーランスの編集者である瀬下翔太氏を登壇者として招待し、「対話型美術鑑賞」における重要な要素である「対話」の意味を、登壇者および石田氏とで、「対話型美術鑑賞」への体験、およびパネルディスカッションから考察した。加えて、登壇者の西本氏と瀬下氏とで新規プログラムを別の機会で見いただき、修正・改善へのコメントを頂戴した。これらの活動を踏まえて、2025年3月にパンフレットを作成した。25年度に向けて、順次パンフレットを配布し、県内・市内各所で活動する予定である。</p>
提言施策	<p>今年度の活動では、主に「対話型美術鑑賞」の普及のためのパンフレット作成、および普及のためのイベントを実施するなど、「新規プログラムの作成」という視点では、概ね順調な研究活動を進めることができた。今後は、パンフレットを配布し、「対話型美術鑑賞」の普及をすることが目指される。そこでは、「対話型美術鑑賞」のプログラムが具体的にどのように進められ、どのような効果が見られるかも検証される必要があるであろう。今後は、喜多方市教育委員会と連携し、新規プログラムがどのような活動となるのかを、参与観察等で検証し、その教育的な価値を探りたいと考えている。</p>